

道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想・基本計画検討委員会（第2回）会議録

日時 平成31年2月27日（月）14時00分～15時40分

場所 石鳥谷総合支所 3階大会議室

出席者 委員出席者10名 吉野英岐（委員長・岩手県立大学総合政策学部 教授）、藤原美宏（株式会社石鳥谷観光物産代表取締役）、菊池邦雄（石鳥谷歴史民俗資料館館長）、中村弘樹（花巻商工会議所石鳥谷支部会長）、平塚正隆（一般社団法人花巻観光協会専務理事）、渡辺芳朗（一般社団法人南部杜氏協会事務長）、佐々木隆之（公益社団法人岩手県トラック協会専務理事）、伊藤純（公益社団法人岩手県バス協会専務理事）、岩館大輔（酒蔵まつり実行団体協議会会長）、藤根果奈子（花巻農業女子プロジェクトメンバー）、五日市亘（岩手河川国道事務所交通対策課長）

委員欠席者1名 佐々木博樹（岩手河川国道事務所調査第二課長）

市側等出席者4名 藤原忠雅（理事）、藤原良浩（石鳥谷総合支所地域振興課長）、阿部善典（石鳥谷総合支所地域振興課 課長補佐）、松田聖実（石鳥谷総合支所地域振興課 主査）、吉原功（一般財団法人日本みち研究所主任研究員）、高野仁（一般財団法人日本みち研究所研究員）

- 次第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 審議

道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想・基本計画（案）について

- 4 閉会

1 開会（開会 14時00分）

藤原課長 本日、委員におかれましては1名、佐々木委員が欠席となっております。その他、11名の委員が出席しておりますので、検討委員会設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立し、また、会議の会議録につきましては、市のホームページで公開することをあらかじめ申し添えます。

また、直前の、昨日の会議資料の配布となりまして、慌ただしい配付になってしまいました大変申しわけございませんでした。A4のものが、資料の2ページ目の差し替えとなっております。それと、A3の図面ですけれども、改修イメージ図ということで、写真の重ね図を配付してございます。

本日の会議につきましては、委員の皆様11名と、市の職員、そして、日本みち研究所のスタッフ2名という形で進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

2 あいさつ

藤原課長 では、菅原石鳥谷総合支所支所長からごあいさつを申し上げます。

菅原石鳥谷総合支所 今年も雪も少ないということもあり、大分春めいてきたところでございます。

支所長 本日は、ご多用中のところ、第2回道の駅施設再編基本構想・基本計画の検討委員会に御出席をいただきましてありがとうございます。

第1回目の検討会におきましては、道の駅「石鳥谷」の現状、課題や問題点、整備コンセプト、そして改修方針等について御検討いただきまして貴重な御意見をたくさんいただいたところでございます。

本日は前回お示しした部分につきまして、その内容を少し掘り下げた内容で基本構想基本計画案として再構築したものを再度御確認いただきますとともに、道の駅「石鳥谷」の改修イメージについてお示ししまして、皆様からの御意見を伺おうと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 協議事項

道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想・基本計画について

藤原課長 検討委員会の設置要領第6条第1項に委員長が会議の議長となると規定されておりますので、吉野委員長に議長となっただき進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

吉野委員長 本日27日に第2回目の道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想、基本計画検討委員会を開かれていますのでございます。先ほど、市から説明もありましたように資料がぎりぎりになってしまったということで、全体を統括する立場からおわび申し上げます。

今回は、さまざまな資料が出されておりますけれども、そもそも改修する・・・それから事業のスケジュールについても案を御提示いただけるということですので、基本的な資料に沿った形で御説明をいただいた上で、委員の皆様から御意見をいただくと

いう形で進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それではお手元の資料あると思うんですけど一応事務局から資料確認だけしていただいた上で、冊子のほうですね、御説明をお願いしたいと思っております。

菊池主査 (道の駅「石鳥谷」施設再編基本構想・基本計画(案)について、資料に基づき説明)

吉野委員長 説明御苦労さまでした。前回のお話しを冊子の形でまとめていただいたのと、より詳細な写真つきの図を今日は作っていただいたということが大きなポイントと、最後に途中になりますスケジュール感も一応出したということでございます。

まず、前回のことも踏まえましてこの基本構想・基本計画について御質問、どなたからでも結構ですけれどもあればいただきたいと思っております。いかがでしょうか。御確認でも結構ですし、前回の意見を踏まえてでも結構です。伊藤委員から申し上げます。

伊藤委員 バスの乗降場について、この間もちょっと質問させていただいたんですが、設けていただいたということで、ありがとうございます。ただですね、大型車の数はトラックだけじゃなくて、バスの停車もあると思うんですが、この乗降場についてバスはどこに行くのかな。ここは停留所ではないとすれば、このバスはまたどこかに止めなきゃなんないので。さて上にはちょっととめられないかなと。

これからまだ設計に入ると思いますが、例えばですけれども、あんまりいい案じゃないかもしれませんが、発電設備のところですね、今のトイレとかなくなれば若干スペースができますので、何十台と置いていただくことではないんですが、並行してですね、何台分かとめるスペースがあるとかですね。

またバスそのものがちょっと駐車スペースが今までであれば奥のほうにあったんですが、ちょっとバスだけのスペースがなくなりましたので、では一般の方々が来た場合どこで降りるのかなと。そう考えるとこの1台だけではちょっと足りないような気がしますので、そこら辺の御配慮もですね、これからの設計の中でお願いできればいいなというふうに思います。

藤井補佐 石鳥谷地域振興課、課長補佐しております藤井と申します。

ただいまのお話についてですが、観光バス、バスの乗降場を利用させていただいた後の駐車場所についてでございます。現時点ではですね、図面の右側、コンビニに近いほうにですね、大型車9台ほど駐車スペースを確保しております。ここでバスの駐車というふうなことを今時点では想定しておりました。

今現在ですね、酒匠館の東側でも、同様の形でバスを駐車していただいているという状況でしたので、現時点ではこの9台のところ、バスの停車スペースという想定で考えております。

今、お話の中であった発電設備付近の駐車等については今後の設計を進める中での参考とさせていただきたいと思っております。

佐々木委員 ちょっとこの中で気になったのは、エリアを分けることによって運転手の動線と車両が交差しますよね。だから、このエリアからこの休憩施設への横断歩道じゃないけど、その通行帯の表示、道路のあんな広くなくていいんですけど 1 メーターぐらいここ渡ってね、逆に言えばここを渡る人がいればとまらなきゃないんだよってというのが、全部っていうのを無理でしょうけど、特に南側の出入り口付近から施設に向かうほうについては特に必要かなと。今のトイレのところのあたりがずっと、こうないと大変だなんていうのが気になりましたので、ぜひその辺も、捉えていただければいいのかなと思います。

今さっき、伊藤専務のほうからもありましたように、バスが停まったほうってというのは、どうしても人がいっぱい動きますよね。そういう意味ではその目線ってというのは絶対必要だと思うので、移動路っていうか誘導路っていうか、何て言うかわかりませんが、そういった部分が一つ必要じゃないかなというふうに感じました。

あともう一つ直接、中身には関係ないんですが、違う観点でですね、障害者のマスと妊婦のマスには屋根はつくんですか。つけばいいんです。それだけです。なぜそのことを聞いたかっていうとですね。ここは防災拠点になるんですよね。物が来たときに受付はどこでやるのかなって感じたときに、ここに屋根がつけばここで受付できるねって思いました。

というのが一つと、関連してちょっと別のほうのお話すいません。物資が来たときにどこに置くんですか。単純にここが拠点ということですが、物資をどこにおいてどういうふうに振り分けするのかなってというのは感じました。この道の駅に直接関係ありませんが、防災計画でいう物資拠点というふうに書いてある以上、やっぱりそこも踏み込んだものが必要なんだろうなというふうに思います。個別に相談に乗りますんで後で聞いてください。

あと 30 ページの下、防災トイレで書いてありますけど、この間も話しましたとおり、かまどベンチだから平時はベンチってことです、かまどベンチという防災トイレは。

あそこに入れとくの？防災トイレ。入れるんであればそれはそれでいいんですけど。東京なんかにもありましたけど、マンホールのふたをあければ簡易トイレなるよっていうやつもありましたので、そういった部分を複合的に考えれば、平時はそのまま平らでもいざというときにはそういう形で、使えるものに捉えていただければ。このかまどベンチは大したいいものと思って私も現物を見てそう思っていましたので、ぜひ有効に使って簡易トイレも含めてやっていただければかなり、いろんな意味での使い勝手がいいのかなっていうふうに感じましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

吉野委員長 ありがとうございます。歩行者の通路、安全確保について何か事務局でありますか。

吉原主任研究員 すいません、日本みち研究所の吉原でございます。今のお話を伺って、よく道の駅の計画の中でもお話伺うというふうになりまして、詳細な部分については実際に設計の中で

やるようにしてるんですが、よくあるのはやはりトイレとか、身障者ますのあたりにです
ね、通行帯をつくるということと、あとはやはり、お話しいただいたように観光バス
の利用が想定されますので、その付近に設置をされるというような状況でございます。

これまで東日本大震災から始まりまして北海道とか、あと広島の状態もそれぞれ見て
まいりましたが、やっぱり主だったところとしましては施設の前にあるような広場とい
うようなところとか、あとは状況によっては公園の部分とか、そういったところに物資
とかが集配される傾向が多いでございます。

また、あと、御承知のように道の駅、駐車場が広がります。なので、そういった
スペースのところですね、物資を集積するというような状況が見受けられますので、
その状況状況ではございますが、特にこちらの石鳥谷の道の駅に置かれてはですね、広
場というものをとらえておりますので、こういったところですね、物資の集積とか、
はたまた炊き出しとかもですね、道の駅でやられます。いったところで物資の提供とか
炊き出しといったことで活用ができるんじゃないかというふうに思っております。以上
でございます。

吉野委員長 はいありがとうございます。よろしいでしょうか。続いて平塚委員。

平塚委員 今、バス協会の専務からお話がありましたけれども、観光客視線からいって、バスの
乗降、基本的には降りたところにまた戻る、バスは動かさないっていうのが基本だと思
います。そういった中で今回、駐車場もかなり広がってます。

今、通行路の問題がありましたけれども、やはり乗降した方の安全確保、これをやはり
きちんとした、通るところというような明示が必要かなというふうに思います。

それから、今回伝承館を曳いてこっちに持ってくるということなんですが、従来、南
から来たときに伝承館と酒匠館が並んであったわけなんですけども、それが伝承館が1
番奥のほうにいつてしまうということで、見過ごされないかなという不安がよぎります。
駐車スペースを多くとったのはいいんですけども、やはりこの伝承館、りんどう亭、酒
匠館、トイレが固まりすぎていて、駐車場からどこに何があるのかわからない。

通常、道の駅等々は建物が一列ですね、その前に駐車場があって、どこに何がある
というのが普通かなと。今回は、駐車スペースによってはどこに行けばいいのか、どこに
何があるのかっていう形がきちんとわからないのかなという懸念がございます。以上で
す。

菅原石鳥谷総合支所 支所長 バスの駐車場所につきましては今後の検討の中での参考とさせていただきたいと思
いますし、伝承館の位置につきましては、基本的には西側に向けたほうが正面というこ
とで、こちらのほうをメインに考えているということで、そういう面でいえばこのりん
どう亭を囲んでですね、北側に伝承館、そしてに南側に酒匠館という形でこれで運動性
とか回遊性を保っているわけですけども。

従来の駐車場っていいですか、南側に停まった場合に、奥の状況が見えないという状

況でございますので、その辺につきましましては、道の駅の施設の配置の状況を十分利用者にわかるような工夫とか、あと駐車場からこの伝承館のほうが見えるような工夫とかをしてですね、多くの方に利用していただくように考えていきたいなというふうに思っております。

吉野委員長 ありがとうございます。ほかに御質問や御意見いかがでしょうか。お願いします。

渡辺委員 将来的には変わるかと思いますが、三つほどありまして。一つは放映されている映像はかなり古い作業工程ですよ。あれをみて酒屋働きをしたくなる人いるのかな。現代の酒造りは全く新しく変わってるんですよ、機械化されて。その辺をちょっと検討してみてもどうかな。

それからもう一つ、二つ目がですね。試飲と酒類の販売が離れていますよね。どちらにも人が張りつくと、すごい人件費とか、人が足りない中では非常に効率悪いんじゃないか、ということですね。

それから、いろんな道の駅に行くと、軽食的な例えば焼き鳥じゃないけれども例えばここ地元だと、白金豚を焼いてね、タレで焼いたものを串に刺して売るとか、ソフトクリームとか、そういう形でのなんていうんですか、ファーストフード的な販売なんかは考えているのか。

それに関連してこの食堂の休憩スペース、酒類販売のところは多分、和室なんですよ。休憩っていうんだったらやっぱり和室があればそこで横になるとかも可能でしょうし、そのあと大型バスで食堂に来たときに、食堂と休憩スペースがあると、休んでる人がいれば食べる人が食べれなくなるんですよ、っていうなこともちょっと考えていたもらったほうがいいのかなというふうに感じました。

吉野委員長 新しいプランですと伝承館と酒匠館が離れますので、それぞれ物販や人の配置に問題があるのかどうかということ、休憩スペースについての御意見ですけどいかがでしょうか。

菅原石鳥谷総合支所 支所長 まず映画のお話でしたが、展示の内容につきましましては今後ですね、見せ方とかいろいろそこは検討してまいるといってございまして、参考にさせていただきたいと思っております。

あと、食堂を単に休憩スペースという表示をしてございまして、具体的にどこにどういうふうにするかというのが示しているわけではないんですが、現在のような食堂的な機能に加えて先ほど委員がおっしゃったようなファーストフード的なものも提供できるようなことを、この中になるのかあるいはこの施設の外ということもありうると思うんですけども、そういったことは検討してまいりたいなというふうに思います。それから、お酒の試飲の場所と酒類販売の場所ということですが、ここで示した案としては伝承館の中で、さまざまな展示とあわせて一部に試飲させる、南部杜

氏のいろんな酒をですね、試飲する場所を設けて、その隣接するりんどう亭のこの場所にですね、酒類を販売する場所を設けたということでございます。確かにそれぞれに人がかかるということでございますので、その部分も検討しながら、どういう使い方がいいのかは今後検討していきたいなというふうに思っております。

この酒類販売の場所についても今現在畳ですけども、それを取っ払うという考え方でこの配置でございますし、休憩スペースというものにつきましても、そういうふうに畳と寝ころんで休むというのではなくてですね、テーブル等で座ってくつろげるという程度のことを考えているといったところでございますけれども、委員さんの御意見も今後の検討の中で、参考とさせていただきたいなというふうに思っております。

吉野委員長 よろしいですか。ありがとうございます。そのほか御意見、御質問いかがでしょうか。はい、藤根委員。

藤根委員 花巻農業女子プロジェクトの藤根です。産直のあり方の検討なんですけれども、具体的に関係者等の今後の検討があるんですけど、具体的な関係者さんっていうのはある程度絞られていらっしゃるのでしょうか。

菅原石鳥谷総合支所 現在ですね、道の駅「石鳥谷」には産直杜の蔵という組織がございますので、平成9支所長 年ころから産直を行っている団体でございますが、その施設が酒匠館の前にあるわけですけども、それを酒匠館内に産直のスペースを設けるという考え方でございますので、それに当たっての運営の仕方については今後関係者と御相談しながら検討してまいるといってございまして。

藤根委員 具体的な関係者というのはまだ決まっていないということですか。

菅原石鳥谷総合支所 これにつきましては、現在ある団体さんも含めて、あるいはいずれできるだけ多くの支所長 石鳥谷地域あるいは花巻市の農家さんから品物をですね、納品していただいて品ぞろえをよくしていきたいという考え方でございますので、その辺も含めた検討といたしますか、相談をさせていただきたいと思っております。

藤根委員 ありがとうございます。もうちょっといいですか。

私自身も産直に物を出してる側の人間なんですけれども、どこの産直もやっぱり物が今集まらないというのはどこの産直でも問題にはなってるんですけども、なんかそれに対して少しほかの産直とは違うものが集まりやすいような何かを、ちょっと検討していただきたいとは思っています。

あとですね、先ほどもちょっとお話があったんですけども、私も伝承館のほうにこの検討委員会のお話が来たときに見に行かせてもらったんですけども、今現状では酒匠館の方か、伝承館の案内も兼ねてやってらっしゃる感じだったので、ちょっとこの場

所が離れることによって伝承館には伝承館のスタッフの方というのを割くおつもりなのかなとはちょっと疑問に思ったところでした。そこら辺はいかがですか。

吉野委員長 いかがでしょうか、事務局。

菅原石鳥谷総合支所 伝承館の中で試飲させるということでございますので、当然そこには人の配置が必要となってくるというところでありまして、それについてもどうあるべきかっていうことを十分、関係者ともお話し合いをしながら進めてまいりたいというふうに思っております。

吉野委員長 そのほか御質問あるいは御提案は。はい、中村委員。

中村委員 イメージ図を見るとですね、メインっていうところがですね、食堂の前のほうがメインっていう感じに見えるんですけども。そうすると、今、駐車場でメインにしてるところが裏口っぽくなるんですよ。それをある程度、こっちの今の駐車場をやってるほうが台数多いですよ、かなり。前のほうより一般車が。

だから、酒匠館の入り口を両方につけ、メインの入り口を両方につけるような感じとか。ここで1番のメインになるのが酒匠館になるので、そこら辺をどのように考えてるのか。お願いします。

菅原石鳥谷総合支所 酒匠館の入り口ということでございますが、この図面でございますとおりの現在の酒匠館の入り口につきましては、南側に駐車した場合の入り口ということになりますし、北側の駐車マスに駐車した場合はりんどう亭前の広場に入って、酒匠館に入る場合には広場から北から酒匠館に入ることです、トイレを利用された方はトイレを通過して西側から酒匠館に入ると。それからりんどう亭に入られた方は、南側の現在の入り口のところから酒匠館に入るという形でそれぞれ導線を確認して利用客の皆様に御利用いただくように考えているというところでありまして。

中村委員 今のメインになっている入り口の前ってというのが駐車場ですよ。それがこのイメージ図でいくと、消えてしまうような、4号線から見えなくなるような感じになると思うんですけども。

そういう案内とかは強く出せるもんなんですよ、案内図とか。こっちにもありますよっていうことをですね。それをした場合に、こっちが裏側ぽくなるので、そこを解消することも考えていかないと、このスペースってというのが全く生かされていないような感じになると思うんですけども。

菅原石鳥谷総合支所 このイメージ図では北から入ってきた人が主に停まるのは伝承館前の駐車場ということになりますし、南から入ってきた場合はもう南側の駐車場に入るんだろうなっていうこともあります、ただ北から入ってきて満車状態であります、南のほうに行って

いただくということになるわけですが、そういった道の駅内の施設案内といえますか、通行案内といえますか、そういったものはやっぱり必要となると思いますので、それが利用者に本当にわかりやすいような表示等工夫しながら、この施設を有効に利用していただくようなことを考えていきたいと思います。

吉野委員長　これはどちらも正面って感じになるんですかね、そうすると。今は図面を見て左側の広場のほうが、正面入り口ということになってるわけですね。だけど今度は大きい広場が右側にできるので、大きい広場からも人を入れるっていうイメージでいいんですかね。そうすると両方とも正面みたいな感じになるんですか。ちょっとそういう人の動きが変わりますよっていうことですね、入り方っていうか。ダブル正面入り口みたいに、裏口は無しで、表も裏も全部正面っていうような形になれるのかどうか、ですね。

菅原石鳥谷総合支所 支所長　言い方がふさわしくなかったのかもしれませんが、あくまでも正面は道路側ということでありますので、西側駐車場がメインということでございます。南側の駐車場についてはサブ的な駐車場ということでお考えをいただきたいなというふうに思います。

吉野委員長　図面から見ると向かって右側の広場のほうから人が入ってくるほうが多いのではないかと。

菅原石鳥谷総合支所 支所長　このりんどう亭前が1番の中心の広場ということですので、こちらのほうに入ってくるように誘導をするということでもあります。

吉野委員長　酒匠館自身はこの図面は現在ある酒匠館の位置と同じということなんですよね。ただ入口が逆づけになるっていうことを想定していると。

菊池主査　中村委員さんのさっきのお話で、どちらが正当な正面だという議論の前に、2カ所あるので、一方はこれたんだけどもう一方のほうがあることを知らなかったということがないように案内とか、お知らせとかしたほうがいいんだというふうな意味も入ったと思うんですけれども、そういうことですね。

中村委員　できれば両方にメインの入り口をつくっていただいて、こっちの駐車場も生かして、北側のほうも生かすっていうようなことをしていただければ、利便性はいいのかなと思います。

伊藤委員　ちょっと今の話なんですけど。

北側から来た方にとっては、先ほどお話でいいと思うんですが、南側から入ってきた方は、南側の信号だけから出るわけですね。ということ考えると、わざわざその方を北側の新しい駐車場に誘導するというのは、利用者にとってもメリットはない

ですよね。

そうすると、やっぱり今と同じ南側のマスを使って入ってくる方が多いので、先ほど中村さんのお話のとおりなんですけど、いずれその2面が正面だというような表示の仕方、あとは建物のつくりですよね。そこに若干お金をかけてやっていただくのであれば、そういうことも配慮しながら、つくっていただいたほうがいいのかなというのが意見です。

吉野委員長 確かに北上方面から来る車から見れば、この四つ角で右に曲がるんですかね。入っている人から見れば、今ある小型車マスがメインの駐車場にはなるだろうなと。こっちから入ってくる人も結構要るだろうと。右上に大きく拡張して、図面の右上のほうに小型車マスをばんと大きくつくって、こっちにたくさん停めていただくんですけど、これはどちらかといえば盛岡方面から来る人たちが1番使いやすいのであって、北上方面から来る人は従来どおり、もともとある左側の駐車場をお使いになるのではないかということですよ。そうするとどっちも使うから、どっちが正面とは言いづらいってような御意見だったかと思いますが。

どうなんでしょうかね、やっぱり北上側から来る人は左側の駐車場に入れるっていうイメージでよろしいんですかね。

菅原石鳥谷総合支所 北上方面、南から来た場合は信号を右折して入るということですので、支所長 その方々が、こちらの南側の駐車マスを利用するのが一般的、普通の場所でございますので、こちらのほうに利用していただくことになると思います。

先ほど言ったようにここに施設の中の動線を青で示しておりますけども、今あるこの酒匠館の南から入ってりんどう亭に向かう通路について、もう少し、今はちょっと狭いような感じで、本当に奥に行っているのかなという感じもあるんですけども、そこをもう少し改善してですね、りんどう亭にも行き来しやすいようにして各施設間の動線を確保して、利用していただくということで考えております。

吉野委員長 そのほかいかがでしょうか。

佐々木委員 たいした話じゃないんですけどね。今の話から整理すると、この障害者マスに付随して東側に18台のスペースがあるじゃないですか。ここを何台か削って人が通る動線を作ってあげればいいですよ。この小型マス38、38に対しても、酒匠館に向かって行く動線を作ってあげれば、障害者マスの下の18台を削っても。そうしてあげれば、こっちからも入る道っていうのはイメージできるんじゃないかなっていう感じがしました。

吉野委員長 この改修イメージに載ってる表の真ん中あたりにある、縦におりていく一般18が、むしろ、小型マスと、酒匠館の間にずっとつながっているんで、人間が通れる道がない

じゃないかという。通れるよっていう何か表示がないと。そうしないと酒匠館に行けない、行きにくいのではないかと、そういう御意見ですけども。

菅原石鳥谷総合支所 今おっしゃったことは、可能だと思いますので、駐車マスの配置とあわせて、いわゆる歩行者の通路っていいですか、そういった部分を明確にすることによって、酒匠館へ入りやすくするということの工夫だと思いますので、検討させていただきたいと思います。

吉野委員長 ありがとうございます。はい、菊池委員。

菊池委員 伝承館のですね、建物っていうのは今の建物と比べて幾らぐらいの広さなんですか。

菅原石鳥谷総合支所 伝承館の建物自体については曳家でこの場所に移すということですので、建物自体としては全く同じものがその場所に移るということになるんですけども、その中に試飲のためのスペースをつくるということになりますので、その分、展示の部分のスペースが少なくなるということですので、その辺は必要な試飲のスペースを確保した上で、それに必要な展示をしていくということになるということです。

菊池委員 そうすると、今の建物を移すということですね。白い壁の建物。それからですね。私は歴史民俗資料館なんですが、結構南部杜氏伝承館の資料を見て、そして歴史民俗資料館を見るという方も多いんですよ、結構。そして2館共通とか3館共通券を売ってるわけなんです。

さっきもいろいろお話が出たんですけども、やっぱり歴史民俗資料館のほうからはけっこう遠いんですよ。将来的に歴史民俗資料館の整備というのは絶対あると思いますのでね、その時にいろいろ問題がやっぱり。あまり、遠くっていうのはですね。ちょっと離れすぎてるような感じがするんですけども。今回は道の駅の整備でしょうけども。

吉野委員長 御意見として、どういうふうにか検討していただきたいと思います。

南側の歴史民俗資料館と今度北側に移設する伝承館があまりにも離れすぎるのではないかという。両方とも見る人がいらっしゃる現状を考えると、その配置についての時の意見として考えてください。はい、岩館委員。

岩館委員 トイレと情報提供施設は新しく建てるということですよ。全く新しいですよ。そうすると、施設が一行のほうがいいんじゃないかっていうようなことも、あつたりとかですね。正面どこだっということだったりとかすると、トイレの位置はこっちではなくて、酒匠館の南側のほうが一行になるんじゃないのかなと、思ったりですね。

あるいは伝承館が離れちゃったんじゃないってなれば、この酒匠館の南の広場に伝

承館、トイレがこの図の伝匠館なのかなとかですね。配置は一応まだ検討余地あるんですよね、ないんですかね。あと立ち食いそば屋さんはなくなるんですかね。まるつきり裏側になっちゃうんですけども。

菅原石鳥谷総合支所 結論から言いますと、配置はこれで行かせていただきたいということでありまして。
支所長 いずれもまず基本に考えたのは、国道側に正面性を持たせようというのが大きなものがあつたということですし、トレイについては、各駐車マスからの利用者の利便性を考えて中央部に位置しているということでありまして。

伝承館については南側に配置することも考えたんですが、そうしますと、いろいろとそれが伝承館をそこに移すことによって酒匠館が隠れてしまうような形にもなるということもあつてですね、最終的に今の位置に落ちついているというところがございます。そういった事情もありますので、基本的な配置については若干向きが変わることも、あるいはあり得るかも、向きが変わるっていうのは伝承館のほうですけども、いずれりんどう亭と酒匠館は建て直すことができませんので、これは固定です。そういった形でこういう位置関係としてはですね、こういう形で進めさせていただきたいなというふうに思っております。

吉野委員長 そば屋さんは、今あるんですよね。

菅原石鳥谷総合支所 そうですね、立ち食いそば屋さんがあるわけですけども、そちらはこのりんどう亭
支所長 側の中なのか外なのかっていう、そこはいろいろ検討していく必要があるとあろうかと思はれますけども、現在の場所については移動していく方向で考えているというところ
です。

吉野委員長 はい。ありがとうございます。そのほか御意見です。はい、藤原委員。

藤原委員 この道の駅の今回の改修イメージ図を見させていただいておりますけれども、先ほど、説明の中で、資料の10ページ、居住者の憩いの場として当該道の駅の役割が高まるというふうに記載されておりますけれども、今回の改修をする中で、どのような居住者の憩いの場というセッティングを考えているのか、まず一つとして。

また、この広場の活用方法、結構広いスペースだと思うんです。この広いスペースをどのような、活用案を現在持っているのかなと。なければなくてもいいです。

あと3番目として試飲のコーナーですけど、先ほど人を配置するとは言っておりましたけれども、どうなんでしょう今の時代、スマートフォンを活用したりとかそういう部分を入れて、人件費じゃなくそういう機器類の中で持っていったほうがいいのではないかなというふうに感じました。

最後です。駐車場がかなり広がっております。先ほど委員の皆様がたからもいろいろお話が出ておりますけれども、歩行者の動線は建物の動線だけしか考えてないようです。やはり構内での事故発生を防ぐための、やはり安全施設など検討するべきで

はないかなど。

余りにもフラットすぎると、必ず構内事故の発生が懸念されます。ですから、歩行者が歩くスペースは、やはり車と分離した形の中で設置したほうが、お金の関係もあると思いますけれども、その辺もあわせて今後検討していただければなというふうに感じたところです。以上です。

菅原石鳥谷総合支所 憩いの場ということでありますけれども、ここは石鳥谷駅前の居住誘導区域ということで、駅前に住まれた方に近接しているということでございますけれども、道の駅についてはごらんのとおり酒匠館と言いますか、産直も含めた、そういった物産の販売あるいは食堂もあります。

そして、このように広い広場もありますし、伝承館もあると。そのほかにも周りには図書館とか資料館、アイスアリーナとかいろんな施設があるわけですが、そういった意味で、この道の駅のこういった施設群を利用していただくということで、快適な生活をしていただくようなことを考えていきたいなと思いますし、あと広場の活用につきましては、具体的なものはないんですが、この場所を使ってイベントを開くとかあるいはキッチンカーとかそういうのを配置して、来た方がいろいろな食べ物を食べていただくとか、そういった活用を考えておりますし、それから試飲に関しましては、先ほどスマートフォンを活用したとかいろいろありました。そういった部分も含めて、どういうやり方が効率的と申しますか、現実的と申しますかね、そういったことを検討していきたいなというふうに思います。いただいた御意見を参考にしながら検討してまいりたいと思います。

あと、駐車場内の歩道者の事故が起きないような配慮と申しますか、そういったことも当然必要でございますので、それも検討してまいりたいというふうに思います。

藤原委員 すいません。要望を一つ。30ページのかまどベンチありますよね、防災の。このかまどベンチをどこにつくるかちょっとわからないんですけど、できればそういうかまどベンチを平常でもバーベキューができるかとかそういうのにも活用できるようなものも少しは考えていただければというふうに思います。

吉野委員長 かまどベンチっていうのは県内でもあるんですか。あんまり聞いてないですか。その活用例なんかがあれば、今の御質問にお答えできるのかなど。まだない？

吉原主任研究員 かまどベンチなんですけど、基本的に災害時しか使われませんで、写真にあるようにかまど状の形をしておりますので、座れる形になってるので、今お話を伺ったようなバーベキューに使うというケースが想定されておられません。

また、今回バーベキューができる場所ということになりますと、先ほどの飲食スペースのほうにも影響があるかと思っておりますので、今のところ現在考えておりますのはその写真にありますような人々が座って休める場所としてかまどベンチも活用できるという

ようなことで、整備のほうを考えていきたいなというふうに思っております。

佐々木委員 山形のうちの協会の施設にあるんですよ、去年つくったんですけども。

さっきもおっしゃったように、ふだんはバーベキューだとかイベントの炊き出しだとか、山形ですから、いものこ会とかね、そういうときに使ってるんです。こういうものだよってみんなに周知するっていう一つの、本来災害時に使いたくないものですよ。だけど逆にそういった日常的な部分でも使えるようにつくっておいてましたから、そういう意味では、先ほど言ったような形でいろんな意味での利便性も想定したものを、今からつくるものであるわけだから考えたほうがいいと思います。

吉野委員長 さまざまな活用方法あるかもしれませんので、情報収集した上で、ふだんから使っていないといざというときに使えないということがよくありますのでね。何かこう親しみが持てるような、考え方も必要ではないかという御意見だと思いました。ありがとうございます。

そのほか御意見いかがでしょうか。

私もちょっと感想に、さまざまな御意見聞くと、かなりあれですね正面性がやっぱり変更されますね。

今の道の駅の配置はどちらかって言えば、南側に向けた玄関がいっぱいついていて、確かに国道はその西？東側っていうんですか、上側を通ってますけども、要は北上から入ってくるほうから見てみれば、ぼんと正面が見えるっていうふうになって。

ただ、りんどう亭が奥にちょうど隠れてしまっているために、そんなとこにこんな建物があるのかっていうようにちょっとこう、なんて言うんですかね、シャドーになってるので、りんどう亭が非常にわかりづらっていうようなイメージ。縦に重なっちゃってるっていうんですかね。そういったものなんですけれども、今度の改修で大きく変わるのは、盛岡方面から入りやすくして、盛岡方面からの視認性を非常に強く出しましょうという。木もちょっと今のところ目隠しみたいになってますので木もある程度伐採をして、盛岡から来る車の運転さんたちが道の駅だなあとすぐわかるようにしたいとなると、そっちからのお客さんもしっかりふえてくることを想定してるんですけど、そうすると、考えてみると正面性は真逆になっちゃうんですね。もともと今はそこに林がありますのでね、バックっていう感じになってるんですが、新たに広場をつくって伝承館を大きく北側に動かすとすると、やっぱりこっちに向いている、つまり北から来る人が正面だと意識できるような建物デザインが一方で必要かなと。

ただ、トイレ、情報提供施設は、上を向いてますので、正面性がいろいろ複雑にあるなど。さらにやっぱこう建物がコの字に組みますので、今度。

さっきも委員からもお話あったとおり、確かに道の駅って一直線に並んでいるような施設が私もいろいろ記憶を辿ると多いなと。パーンと駐車場があつてその奥に一列にざっと並んでるっていうものが確かに、あちこちの市の影響あったなと思う。雫石

なんかもそうですし、新しくできたところ言えば田老なんかもそうですし、まず1列型でぼんと並べちゃうっていうことで。

今回は改修だから、新築ではないのでね、そういうふうなところまでは踏み込むのは難しいんですけど。どうしても今の国道4号のバイパスのほうから見れば、それでもやっぱりトイレを持ってくと酒匠館が隠れるっていう。T字みたいになってますのでね、酒匠館は隠れるんだけど、広場をつくることによって盛岡側から人を入れるっていうふうになると、やっぱりその、建物そのものは大きく変えるのは伝承館だけですけれども、本当に入りやすくするには、どういうふうに工夫されるかなど。正面が2個あるというのは建物として難しいと思うんですけども、逆に、どこにどういう配置をしたりすると非常に使いやすくなるのかなっていうことをあわせてその建物の位置だけではない形で考えていってもいいのかなと思っていました。

あと、もともとあるこの南側の駐車場っていうのは図書館の利用者の方々もここ扱うんですよね。はい。共用駐車場みたいなことも、もちろんもちろん道の駅の諸施設を使っていた方がいいんだけど、図書館利用者にも当然ながら御提供されるということですので、やっぱりちょっとこう、ある意味で、お客様に対してどういう表示を出して、こっちに行くと何とかでこっち行くと何とかで奥行くと、今ので言うはずっと多くと伝承館ありますよとかですね。その辺の案内のやり方もかなり早い時期に考えていかないと、せっかく動かしても利用者がふえないっていうのが一番よくないことでしょうから、伝承館の利用を入館者の方々にも、増やすためには、表示ですかね、サインなんかも、この際、工夫されていったほうがいいのかないかなと思っていました。

それから、特段書いてなかったんだけど、もちろん電気自動車対応の駐車だけじゃなくて充電っていうんでしょうかね。充電スペースも今後のことを考えますと必要で、サインであるとか、場所の確保なんかも、小型車中心でいいと思いますけども、どこかにEV対応の施設なんかもあらかじめつくっておいたほうが後で工事するときには、電気の問題ですのね、どこに置くとそういうEV車は入りやすいのかなということも含めて、考えていただけるといいかなと思って聞いておりました。

駐車場が111台から190台程度まで増やすっていうのが大きな命題になっていますので、何としても、駐車場をたくさんつくるっていうのが、図面からうかがえてくるんですけども、会議の中でもお話ありましたとおり、そうすると歩行者が、どこにとめた駐車場からどういうふうに来ると安全にこの建物まで辿り着けるのかっていうのが、駐車場をまたぐような形になっちゃうのも大変だなと思っておりましたので、やっぱりこの人間のほうの駐車マスからの動線についても、引き続き御研究いただいて、確かに190台ないとだめなのかもしれないけど、かといって安全性を犠牲にするわけにはいかないとしますので、そこにバランスをぜひ考えていただけるといいかなと思っていました。

国交省さんはなかなか当事者で言いにくいところもあるんですが、全体的にいかがでしょうか。

五日市委員 皆様の御意見を伺わせていただきました本当にありがとうございました。各自の立場でいろんな御意見があるんだなということをつくづくを教えてくださいました。我々としても、利用される皆様のほうがいかに使いやすくていうことを考えて計画していくことを第1としておりますので、今おっしゃった車の駐車位置それからあと施設の配置、それとあと、運転手さんがおいて歩行者となったときの安全というところをきちっと考えていかなきゃならないなというふうに思います。

これからの計画の中でそういった面をきちっと考えてですね、やっていきたいと思えますので、あとは産直のほうの施設については、この道の駅リニューアルということで新しくなりますので、ぜひ皆様のほうで潤いのあってしかもにぎわいのある、そういった形の道の駅にぜひつくっていただきたいなと思えますので、我々としても頑張っていきたいと思えますので、今後ともよろしく願いいたします。

吉野委員長 ありがとうございます。いただいた御意見を十分に御検討いただくということで、全体的には基本構想・基本計画の案に書かれていること並びに、今日示された、大きな細かいところは改修されると思えますけど、改修イメージの図については、御提案したものを、委員会としては一応御了承したという形でよろしいですか。細かい修正はこれからも、きょうの意見を踏まえてしていただくことになると思えますので、そこは必ずやっていただくということをお願いしたいと思えます。よろしければ、これを今度パブリックコメントで市民の方々に出すというような手順が予定されていると聞いてますので、ちょっとそのあたり教えていただければと。

藤原課長 今後の予定について情報提供でございます。

本日いただきました御意見を基本構想基本計画案の反映させていただいた上で、今度は市民からの意見を募るパブリックコメントということで、3月の下旬から4月下旬にかけての期間で実施いたします。

その過程で大きく何か変更、大きく何か変化することがもしある場合につきましては、再度検討委員会を5月に開催することがあるかもしれません。特にそういうふうに大きい変化がない場合につきましては、そのまま案から本当の計画というものに決定していくということで進んでまいりたいと考えてございます。

もし再度、委員会がある場合にはよろしく願いしたいと考えてございます。以上です。

吉野委員長 はい。ありがとうございました。

この後、市民の皆様から御意見いただく機会をつくって、それを踏まえた上で最終的に決定するというこのようでございます。

それから、実はこの工事に着手した場合は、全面閉館にはしないというふうにもちょっと聞いたんですが、そのあたりはいかがなんでしょうか。

菊池主査　もし私の回答に不足があるときは、すいません。補佐からもお願いしたいんですけども。今ちょっと将来的なスケジュール入れましたけれども、基本的に道の駅ですので、駐車場が全部使えないとかトイレが全部使えないとかそういったことのないように順繰りに進めていくことを考えてます。工事はしているんだけどこの駐車場が使えるとか、工事はしてるんだけど、このトイレには行けるとかですね、そういった形で全部の施設が閉鎖されて、道の駅「石鳥谷」って今全部使えないんだってということのないように努めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

吉野委員長　つまり、工事がもし始まったとしても営業というか開館をしているし、24時間使えるトイレと休憩機能は残すということですのでよろしいですか。そうすると、あけながら工事をしなくてはいけないという。

菊池主査　この道の駅のエリアの中のどこかのトイレが使えるという意味で申し上げました。細かいですが例えば国のトイレが全部閉鎖することはもしかしてあるかもしれませんが、酒匠館のトイレが全部使えないということは、起こりうるかもしれないので、あくまで駅内全体でというふうに捉えていただければと思います。

吉野委員長　休止はしないということですね。

吉原主任研究員　すいません、ちょっと補足だけさせていただきます。改修は結構やっぱりいろいろ大変な状況でありまして、今、先生おっしゃったようにですね、こっちを壊せばこっちが動かないと、こっちが動けばと言ってこっちがってそれぞれあると思います。トイレに関しましては基本的に24時間使えるというのが道の駅の前でございまして、それについてはですね、どちらを最初に壊して、今その壊してる途中に、こっちの大体のトイレが使えるとか、そういったような形の施工計画を今後立ててまいりますので、基本的にはそういった形で24時間取り扱えるというような条件は確保していきたいというふうに思っております。

吉野委員長　この辺が新築と違うところで、既存施設の機能はある一定程度保全しながら、建物の移設や解体新築ということと同時に進めていって、それも敷地も拡張するという意味ではかなり複雑だなと、聞いていてもですね、全面休館しても一切人が入れないのであれば安全性も確保できると思いますし、工事も、効率的に進められると思うんですが、一部施設は利用可能な状態にしておいて、なおかつ工事も今後していくという意味では、難しい部分もあるなと思っておりました。道の駅の改修というのは、国交省さんの的にはなされたこともあると考えてよろしいですか。

五日市課長　やっているとところはありますけれども、岩手河川ではちょっとないです。初ですね。

吉野委員長 県内ではほかの事務所が管轄してるんですか、三国さんっていうのは。また、田老みみたいな感じに場所を変えるんだったら、ほぼ新設に近いようなものでしたもんね。

もしかしたら1例目に、盛岡としては1例目になる。もし実施にこぎつけられればということだけど。ちょうど25年経過されて、施設の面でも一定程度改修を入れていかないと、老朽化してるということもございましたし、社会経済情勢も25年前とは変わってきたので、新しい機能に答え、新しい要望にこたえるような機能をつくっていかないといけないっていう意味では確かにそのとおりでということなんですけど、どうやって、本当に具体的に、安全に、工期もなるべく長くないように進めていくかっていうのはまさにここの現場の皆様の腕の見せどころになるのかなと思っていますので、市民の皆さんの御協力がまず必要ですけれどもあと地権者さん等々の関係者の御協力が必要ですけれども、本当に言ってみると1例目になる、エリアの中ではですね1例目になるということで、国交省さんたちの御理解御協力ができないと思いますので、十分協議をされた上で進めていただければと思います。

何かほかの委員さんでも、こうしたほうがいいのかですね、ここは注意しておいたほうがいいですよっていうのがあれば、次回の会議はちょっとまだ未定ですので、御意見いただけるならきょうのうちですので、もしあればいただきますが、いかがでしょう。何か後で気がいたら、個別にまた市役所のほうに御提案していただければと思います。それでは協議事項については以上で終わりにしたいと思いますので、その他について事務局からあればお願いしたいと思います。

藤原課長 先ほど御連絡というかお話しましたとおり、委員会につきましては3回目がもしかしたら開かなければならないときにはまた改めて御案内いたしますのでよろしく願いしたいと思います。それがなければ今回の委員会でもって終了ということにさせていただきます。

それではこれもちまして、本日の第2回の検討委員会を閉じさせていただきます。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。